



9月号

終わらない夏



夏の鎌倉で繰り広げられる古書をめぐる推理が読者を惹きつける。古書と人が複雑に絡み合う独特の世界観が美しい。

本を通じて更に多くの本を知ることができる楽しさがあります。是非一度、手に取り読んでみてください。

2718 木下 煌晃



この本は、暑い夏の日々の中で繰り広げられるミステリー小説です。

海や浜辺での描写や出来事は夏の空気感を連想させ、その中で解き明かされる真実に引き込まれます。是非読んでみてください。

2802 渥美 直之



この本には泳ぐTレックスの描写があります。この場面は、今上映されている映画「ジュラシック・ワールド」のワンシーンでもあるので、本を読み映画も見て、2つを比べてみてはどうでしょうか？

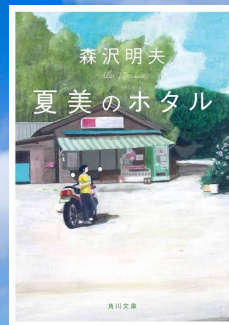
2912 木俣 瑛斗



コロナ禍に翻弄された中高生たちが、「星を見る」ことで繋がる物語。

「いつも通り」が当たり前ではなくなった生活の中で、その年の夏をかけがえのないものにしようと奮闘する学生たちの姿に感動するでしょう。

2804 大石 悠月



瑞々しい筆致で描く、人生のラブレター。写真家志望の大学生慎吾は、卒業制作間近、彼女と出かけた山里で、古びたよろず屋を見つける。そこでひっそりと暮らす母子に温かく迎え入れられ、夏休みの間彼らと共に過ごすことに。心の故郷の物語だ。

登場人物がみなとても優しく、途中からは感動して涙がでます。著者の代表作の一つでもあり、映画化もされています。ぜひ、読んでみてください。

2929 前田 剛志

この作品は既に映画化されており、小説を読んだことのある人はより一層楽しむことができると思います。この夏、人の温かさに触れ感動したい人におすすめです。

2719 小杉 陸斗